

# 穂別町立博物館報

第 1 号

(昭和57年度～58年度)

穂 別 町 立 博 物 館

## 目 次

---

発刊のことば	1
開館までの歩み	2
展示活動	4
資料収集保存活動	9
調査研究活動	11
普及教育活動	12
運 営	13

---

## 発刊のことば

「クビナガリュウの化石が穂別から出た」そんな話が町中に広がった。昭和50年6月、本町在住の荒木新太郎氏の見つけた化石が穂別に夢を与え、博物館建設のきっかけとなり、昭和57年7月、開町70年、町制施行20年を記念して、自然科学を中心に人文科学も兼ねそなえた総合博物館を建設したのであります。

本町は、クビナガリュウをはじめ、モササウルス、ウミガメ、デスモスチルス、クジラ等多くの化石が発掘されていることから、展示もクビナガリュウを代表とする古生物の世界を中心とし、そして開拓先人の苦闘の足跡をものがたる生活と文化を展示しております。

特色としては、正面ホールに体長8mのクビナガリュウの復元骨格をはじめ、変化ある地形と地質、海だった穂別、生活の変化と文化の創造等7つのテーマからなっております。

当館は、本町の地層から収集した化石を中心に資料の収集保存をはじめ、調査研究、展示や教育普及活動など質の高い博物館を目ざし、機能の充実をはかるとともに、町民をはじめ道内外の機待にそうよう運営に努めているところです。

開館以来3年目を迎え、入館者数も3万5千人になりますが、今後も調査研究をはじめ展示活動や学校教育における郷土学習の場として、多くの児童、生徒にも利用されるよう創意工夫をしております。

また、博物館は自然を学ぶところであり、歴史を知るところとして町民に開かれた社会教育の場でもありますので、巾広い利用を望むものであります。

なお、この報告書は開館から昭和59年3月末日までをまとめたものであることを申し添え、館報の創刊にあたり、今日までご支援いただいた関係各位に感謝申しあげるとともに、今後とも一層のご指導とご協力をお願い申しあげ発刊のことばといたします。

昭和60年3月

穂別町立博物館長 桜庭勝美

## ● 開館までの歩み

昭和52年7月5～8日 長頸竜化石の発掘がおこなわれ、博物館建設のきっかけとなる。

昭和53年11月 旧さくら保育所あとに穂別町立郷土資料館オープン。  
郷土資料館が中心となり、資料の収集、長頸竜化石のクリーニング作業がおこなわれる。

昭和54年3月5日 長頸竜化石骨が穂別町文化財保護条例に基き、穂別町指定文化財第2号に指定される。

昭和55年10月16日 第1回穂別町郷土資料館建設計画検討委員会開催。施設の概要、今後のとり組み方などが話しあわれ、また、北海道開拓記念館の北川芳男学芸部長より「特色のある郷土資料館づくりとは」の題で講演がある。

昭和55年11月21日 昭和55年度第8回定例教育委員会において、穂別町資料館建設にあたっての考え方が話しあわれる。

昭和55年11月26日 第2回検討委員会開催。施設見学（三笠市立博物館と北海道開拓記念館）並びに、郷土資料館建設にあたっての考え方（まとめ）が話しあわれる。

### <建設の目的>

本町は、クビナガリュウをはじめデスマスチルス、海ガメ等多くの動植物の化石が発掘されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想され、こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘にうち勝って穂別の歴史を展開してきた。

穂別町開基70年（町制施行20年）を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集、保存、展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。

昭和55年12月5日 第3回検討委員会において、展示シナリオの基本的な組み立てが話しあわれる。

昭和55年12月22日 第4回検討委員会において、次のような展示シナリオの組み立てが話し

あわれる。

### <メインテーマ>

— 自然と人間との対話 —

1. 母なる大地—地球のおいたち—
2. 生物の進化
3. 地下資源と私たち
4. 豊かな自然
5. 林業の始まり
6. 穂別の未来

昭和56年1月27日 第5回検討委員会において、北海道開拓記念館、亀谷隆研究員より詳細な展示シナリオが示される。

1. ようこそ穂別町郷土館へ
2. 日本列島と穂別の歩み
3. 海だった穂別
4. 開拓と発展への努力
5. 新しい町づくり
6. 穂別の歴史探訪

昭和56年3月13日 第6回検討委員会において、建物の規模、構造等および展示の平面図が示され、協議する。また、名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更する。

昭和56年5月22日 第7回検討委員会において、設計図面の確認、今後の活動計画が話しあわれる。

昭和56年6月11日 第8回検討委員会において、展示班、資料収集班、図書班にわかれるとともに各班に特別協力員を選ぶ。

昭和56年6月24日 第1回展示班打合せ会議において、展示についての学習会および展示シナリオの分担を決める。

昭和56年7月11日 北海道開拓記念館において、展示班の視察研修をおこなう。

昭和56年9月1日 学芸員採用

昭和56年10月29日 第9回検討委員会において、展示シナリオの修正案が話しあわれる。

### <展示シナリオ修正案>

1. ようこそ博物館へ
2. 変化ある地形と地質
3. 海だった穂別
4. 人類の出現
5. 道具の発明と生産

6. 生活の変化と文化の創造

7. 自然への調和

昭和56年11月7日 北海道開拓記念館において、博物館管理業務内容についての打ち合わせをおこなう。

昭和57年2月10日 第10回検討委員会において、展示シナリオの一部修正、長頸竜化石の復元展示、博物館の運営について話しあわれる。

昭和57年3月5日 第2回展示班会議開催

昭和57年3月11日 第1回資料収集班会議において、資料収集方針及び収集計画が話しあわれる。

昭和57年7月20日 穂別町立博物館開館



完成した穂別町立博物館

## ● 展示活動

### I 常設展示

長頸竜(クビナガリュウ)を代表とする古生物の世界と、穂別町の開拓に使用された各種の道具類を広く展示し、これらを理解してもらうとともに、未来の穂別を創造する手がかりとなるよう配慮したものである。

また、将来の展示替えにそなえて、化石ショーケースやビデオボックス、壁面パネルなどは移設・再使用が可能な仕様に作られている。

#### ■テーマ1 ようこそ博物館へ

来館者への歓迎と博物館の利用案内を示す。ただし、7月の開館の時点ではホールに展示されるべき目玉の長頸竜(クビナガリュウ)の復元骨格は完成しておらず、12月になって展示された。

#### ■テーマ2 変化ある地形と地質

現在の穂別町における変化に富む地形と地質を学習させる。

##### 2-1 穂別の地形

- ・概要説明
- ・位置図
- ・地形模型(2万5千分の1)
- ・空から見た穂別町市街など4枚のカラーコルトン

##### 2-2 穂別の地質

- ・概要説明
- ・音響説明〈穂別のおいたち〉
- ・地質図、総合柱状図
- ・北海道の古地理図(5点)
- ・地質標本(22点)
- ・生物の歴史年表

#### ■テーマ3 海だつた穂別

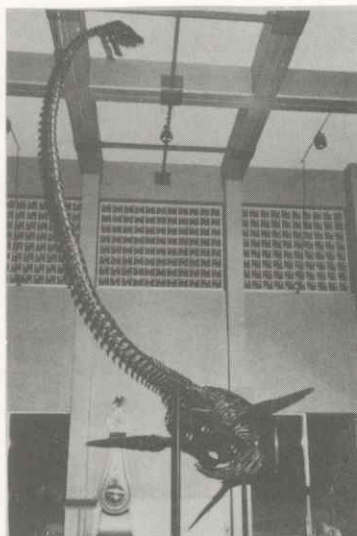
長頸竜(クビナガリュウ)やアンモナイトが栄えていた後期白亜紀、石炭ができた古第三紀、クジラやデスマスチルスが泳いでいた新第三紀の3時代に分けて、海だつた穂別とそこに生きていた古生物を示す。

##### 3-1 クビナガリュウの海

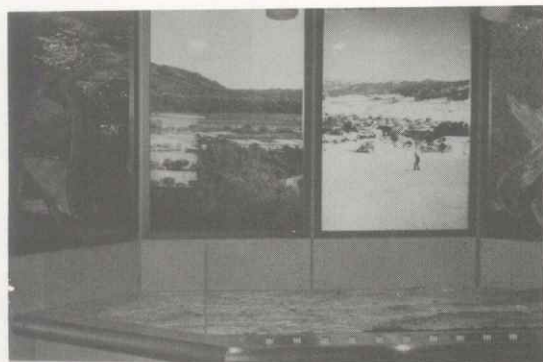
- ・概要説明

###### 3-1-1 クビナガリュウとは

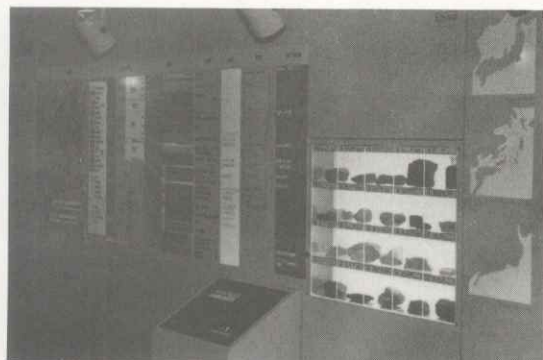
- ・概要説明
- ・爬虫類の系統図
- ・クビナガリュウの分布図



クビナガリュウ復元骨格

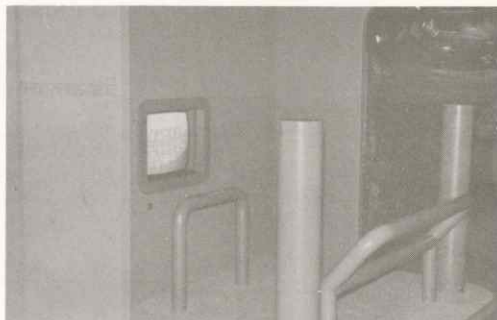


地形模型とカラーコルトン



穂別の地質

- クビナガリユウの仲間たち
- 3-1-2 よみがえるクビナガリユウ**
  - クビナガリユウ復元図（原寸）
  - クビナガリユウ骨格図（原寸）
  - クビナガリユウと共に産出した化石  
(10点)
  - クビナガリユウ化石産状模型（8点）
  - VTR：クビナガリユウの発見から復元まで、約12分



よみがえるクビナガリユウビデオコーナー

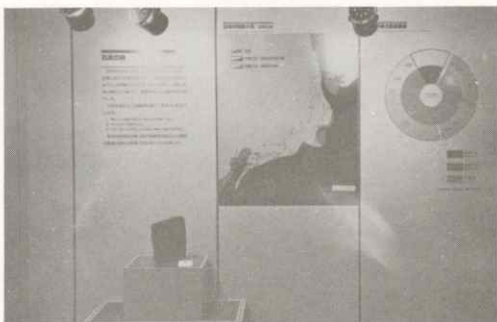
- 3-1-3 海の生き物たち**
  - 海の生き物たち
  - イノセラムスのレンジチャート
  - 化石のでき方
  - 化石の種類
  - 化石のできる条件
  - 中部えぞ層群の化石（41点）
  - 上部えぞ層群の化石（61点）
  - 函淵層群の化石（28点）
  - 巨大化石（6点）



上部えぞ層群産出化石

- 3-1-4 陸に上がった生き物たち**
  - 陸に上がった生き物たち
  - 植物化石（1点）
  - 陸ガメ化石（1点）
  - 音響説明〈恐竜絶滅の謎〉

- 3-2 石炭の森**
  - 概要説明
  - 日本の炭田分布-古第三紀-
  - 石炭の時代別埋蔵量
  - 穂別炭産石炭（1点）
  - 植物化石（2点）
  - メタセコイアの葉（1点）
  - その他の化石（カニ、サメ等5点）



石炭の森

- 3-3 クジラとデスモスチルスの海**
  - 概要説明

- 3-3-1 珍獣デスモスチルス**
  - デスモスチルスの生態復元図
  - デスモスチルスの骨格図
  - デスモスチルスの分布図
  - デスモスチルスの頭骨模型（1点）
  - デスモスチルスの歯（5点）
  - デスモスチルスと共に産出した化石  
(20点)
  - その他の貝化石など（8点）



デスモスチルス頭骨模型

- ・哺乳動物の化石分布図（北海道内）

3-3-2 クジラ

- ・概要説明
- ・クジラの系統樹
- ・クジラの化石（7点）
- ・現生クジラ骨（2点）

■テーマ4 人類の出現

- ・概要説明
- ・人の直系—魚からヒトへ—
- ・霊長目の系統樹
- ・手足の比較
- ・化石人類の分布図
- ・頭骨の進化
- ・化石人類の頭骨模型（8点）

マルチスライドスクリーン

— 地球の誕生と生物の進化 — （15分）

■テーマ5 道具の発達と生産

- ・概要説明

5-1 石器から機関車まで

- ・道具の発明年表
- ・石器・土器（34点）
- ・先住民族の生活用具（11点）

5-2 農耕・畜産用具のいろいろ

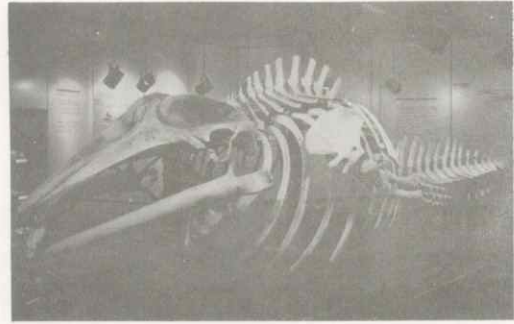
- ・穂別の農業概要説明
- ・穂別の畜産概要説明
- ・水稻・畑作別作付面積と主な農産物の移り変わり
- ・家畜飼育頭数の移り変わり
- ・関連写真（3点）
- ・農耕・畜産用具（40点）

5-3 林産用具のいろいろ

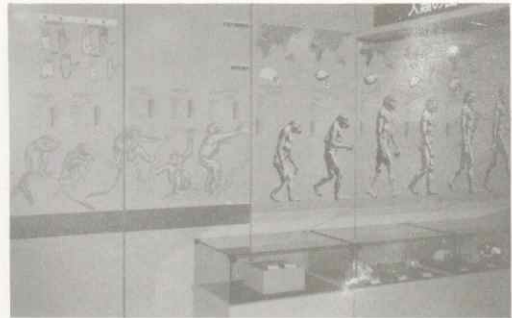
- ・穂別町の林業概要説明
- ・穂別の土地利用区分
- ・林業写真（6点）
- ・網羽復元模型（3点）
- ・網羽関連写真（13点）
- ・音響説明〈網羽〉
- ・木炭製造の工程写真（8点）
- ・炭焼小屋模型（1点）
- ・炭焼用具（2点）
- ・各種林産用具（70点）

5-4 鉱工業用具のいろいろ

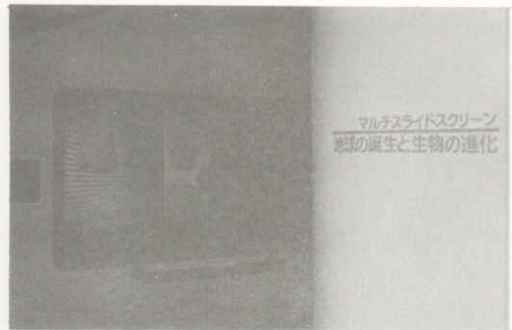
- ・鉱工業の移り変わり概要説明



コイワシクジラの骨格



人の直系—魚からヒトへ—（後半部分）



マルチスライドスクリーン  
地球の誕生と生物の進化



農耕・畜産用具



- ・石炭・クロームの生産高
- ・鉱山関連写真（4点）
- ・各種鉱工業用具（27点）

5-5 その他の産業用具

- ・各種産業用具（29点）

■テーマ6 生活の変化と文化の創造

- ・概要説明

6-1 生活用具の変化

- ・概要説明

6-1-1 衣生活用具のいろいろ

- ・衣生活資料（30点）

6-1-2 食生活用具のいろいろ

- ・食生活資料（55点）

6-1-3 住生活用具のいろいろ

- ・住生活資料（34点）

6-1-4 その他の生活用具のいろいろ

- ・その他の生活資料（15点）
- ・関連写真（2点）

6-2 穂別町の歩み

- ・年表
- ・樹幹標本（1点）
- ・人口と戸数の移り変わり
- ・教育・行政・治安・交通通信関連写真（17点）
- ・消防・測量・教科書等資料（22点）

6-3 戦争と人々

- ・概要説明
- ・年表
- ・関連写真（6点）
- ・関連資料（25点）

6-4 物価の移り変わりりと貨幣の変遷

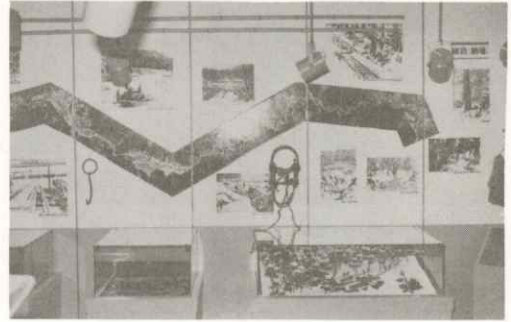
- ・概要説明
- ・米価と賃金の移り変わり
- ・貨幣（58点）
- ・紙幣（31点）

■テーマ7 新しい町づくりをめざして

- ・概要説明

7-1 穂別の自然

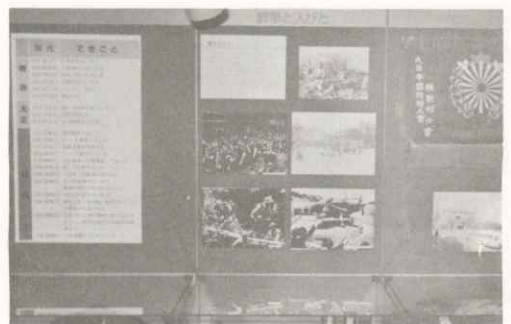
- ・穂別の降水量
- ・穂別の気温
- ・穂別の四季、カラーコルトン（4点）
- ・ヒグマ骨格標本（1点）
- ・ヒグマ剥製（2点）



網羽



食生活用具



戦争と人びと



ビデオ学習コーナー

7-2 人間健康宣言の町ー穂別町

- ・人間健康宣言の町をめざして
- ・穂別町の現在の姿(写真32点)

7-3 ビデオ学習コーナー

Random Access Video

約15本のプログラムの中から、観覧者が自由に選んでみる事ができる。

1. 人間健康宣言の町づくり(18分)
2. 蝶の一生(17分)
3. 穴グマ捕獲の記録(8分)
4. 今、この大地に(45分)
5. ヒグマを追って(15分)
6. 地球に生きる(45分)
7. かけがえのない地球(24分)
8. 太陽の活動(20分)
9. 火山のつくる地形(15分)
10. 年代をはかる(25分)
11. 生きている海岸線(30分)
12. ダーウィンの進化論とガラパゴスの生物(14分)
13. 動物を分類する(16分)
14. 自然のつりあいと保護(20分)
15. 大地を変える水の流れ(22分)

\*新着資料・収茂資料コーナー

- ・南極の石

◎ 常設展示の一部展示替え

テーマ3、海だった穂別のうち、海の生きものたち(3-1-3)の化石の展示を次のように展示替えした。

[旧展示]

- ・中部えぞ層群の化石(41点)
- ・上部えぞ層群の化石(61点)
- ・函洲層群の化石(28点)

[新展示]

- ・爬虫類の化石(27点)
- ・アンモナイトの化石(32点)
- ・いろいろな化石(32点)

Ⅱ 特別展

○第1回特別展「よみがえるクビナガリュウ」

昭和57年12月21日から一般公開されたクビナガリュウの復元骨格にあわせて、クビナガリュウの発掘から復元までのできごとと、クビナガリュウと同じ時代に生きていたさまざまな動物を穂別町から産出した化石を使って紹介した。

\*期間 昭和57年12月19日～昭和58年1月23日

\*入場者数 大人 521人  
高校生以下 406人 } 合計 927人

\*展示内容

- 1 発見から復元まで
  - 1-1 発見から発掘まで
  - 1-2 発掘
  - 1-3 クリーニングと研究
  - 1-4 復元
- 2 クビナガリュウの世界
  - 2-1 クビナガリュウの世界(実物化石・復原図など)
  - 2-2 クビナガリュウの先祖と系統
- 3 海の仲間たち
  - 3-1 ウミガメ
  - 3-2 ウミトカゲ(モササウルス)
  - 3-3 魚竜

Ⅲ 収蔵資料展

○第1回収蔵資料展「地図展」

\*期間 昭和58年7月22日～8月7日

\*入館者数 748人(町内13%・町外87%)

\*展示内容

- 1 地図のいろいろ
  - ・地形図、地質図、植生図、北海道自動車ネットワーク図など
- 2 穂別の地図
  - ・地形図「沙流」未出版(複製品)、穂別局郵便区全図、鶴川穂別中島平面図(網場)の図面など

○第2回収蔵資料展「こけし展」

\*期間 昭和58年11月1日～3日

\*入館者数 240人

- \*展示内容
- ・伝統こけし(18点)
  - ・新作こけし(41点)
  - ・郷土玩具(35点)

## ● 資料収集保存活動

### I 寄 贈

資料の寄贈者名簿を開館までと開館以降に分けて記録しておく。なお、記録にもれがあるときは次号に掲載したい。

〈開館（昭和57年7月20日）以前〉敬称略

浅野 勝司・浅野 公司・浅野シズエ・兄後 光春  
阿部 三郎・阿部 利春・荒木新太郎・五十嵐清吉  
五十嵐松江・石川二三四・石黒 重作・石黒平八郎  
石崎喜四郎・石崎新一郎・石崎 正行・石崎ミサオ  
石崎 茂一・石塚 次男・猪野 勉・氏家 績  
上杉 教男・上村 隆三・上村 充夫・越前 喜一  
江崎 洋一・大頭 明良・大久保定夫・大塚 雪雄  
太田 健造・太田 清一・大谷 健蔵・大山 万吉  
尾崎 勲・小沢 貞夫・小沢 末松・小野寺正行  
角 正夫・角張 勤・笠巻袈裟男・笠松 郁雄  
河合 昭・河崎 元也・記伊 正義・北上 サダ  
北山 兵市・北山 吉昭・紀藤 武・木村 利一  
久保田仙吉・小石川重男・小石川武美・小林 勝男  
小林 繁・小林千代蔵・小林 俊樹・小松 静子  
小松多喜美・小山 浅雄・小山 妙子・小山 典子  
小山 信雄・今 幸太郎・後藤 秀雄・斉藤 博  
佐々 次郎・佐々 節・佐々 一・笹尾 栄作  
笹原 俊介・佐々木 明・佐々木定雄・佐々木千代  
佐藤啓次郎・佐藤 純一・佐藤 鶴吉・佐藤 嗣夫  
佐藤 博義・佐藤 茂吉・実吉 安仲・三条 辰弘  
佐久間正雄・志良孫太郎・柴山 七郎・柴山 与吉  
菅原 昭二・菅原 義次・杉村 英二・鈴木 留蔵  
鈴木直三郎・首藤 実・高木 俊男・高田 精  
高西 力蔵・高橋 市郎・高橋 栄六・高橋丑五郎  
高橋 エツ・高橋 小萩・高橋 作一・高橋作太郎  
高橋 博志・高橋 なお・滝沢 覚弥・武田 代  
只野 繁・田中 岩雄・谷内 春元・谷内 春次  
種田勝之進・種田 一義・竹内 節二・多村 秀雄  
千代川謙一・中條 太光・寺田 伊作・土居 国一  
中川 サク・中島 要・中田智枝子・中村 由之  
中村 智義・中村 孝・中村 忠良・中村 義雄  
中村 敏子・長尾 秋男・長岡 俊一・長岡 晴道  
長岡 静男・新沼 一美・西尾 清則・西尾 安則  
西尾 忠則・西屋 久・野場 正一・野村 サダ  
橋谷田静子・長谷川真一・長谷山多一郎・林倉 洋一  
畑中 政義・原 巖・原田 幸一・檜山 万吉  
深谷 米男・二ツ屋力一・布施 光儀・布施 武治

布施 義美・藤岡 勝美・藤田 嘉一・藤山 正  
藤山 政治・星 正美・星 正次・星 緑  
前田 富・松柳美代子・三浦 清・三上千次郎  
三上 弘二・都田 哲・宮崎 祐一・宮崎きよみ  
宮田 ハツ・宮宅 利平・村上 隆・村上 礼  
村上 幸雄・舞良清太郎・森池 一夫・森池 春夫  
森池 孝夫・森本 金作・八木原 寛・山川 外吉  
山田 哲義・吉岡 芳信・吉田外次郎・吉川 敬一  
横山 幸枝・横山 正春・横山 宏史・渡辺 吉樹  
渡辺勇次郎・和泉下自治会・長和自治会・福山小中  
学校・静内保線区穂別支区・穂別郵便局・穂別町化  
石研究会・穂別町自然を守る会・穂別町馬産振興会  
穂別町森林組合・鶴川営林署穂別製品事業所・大洋  
漁業株式会社

〈昭和57年7月20日～昭和59年3月31日〉敬称略

浅野 勝司・浅野シズエ・姉崎 恵信・上村 充夫  
越前 一・阿部 利春・荒木新太郎・石井 由治  
石崎 正行・石田 ミヨ・伊藤 貞一・大頭 サト  
大友セツ子・大沼 光行・大場 吉美・奥野 裕  
小沢 末松・落合 久子・角 正夫・笠巻袈裟男  
勝島 尚美・鹿糠 貢・河崎 元也・葛野ヨミ子  
工藤 明・久野 隆史・久保田瑞真・窪田 順一  
国府田良樹・国分 博治・小松 ハル・佐久間静枝  
佐々木秀吉・佐藤 武・佐藤 亮一・三条 辰弘  
下谷内 勇・菅原 昭二・首藤 実・高橋 エツ  
高橋 博志・高橋 正好・中條 太光・佃 和男  
中島 要・中村大八郎・中村 忠良・長岡 誠一  
根本 義雄・長谷川利一・平田 春雄・藤江 一男  
藤山 政治・不動 重雄・堀岡 粹子・真壁スゲノ  
丸山 範子・三上 春夫・宮崎 日吉・森谷 彰  
安富 薫・山岡 利汎・山口 忠蔵・山田 正  
山田 哲義・吉川 徳江・吉川 光成・穂別町化石  
研究会・国鉄穂別駅・静内保線区穂別支区・株式会  
社岩倉組

### II 学芸員による主な採集

化石の採集にあたっては穂別町化石研究会の諸氏菅原昭二氏、笠巻袈裟男氏、高木俊男氏に大変お世話になった。

〈昭和57年度〉

4月4・18・25日 富内・平丘 函淵層群化石  
6月3日 門別町賀張 厚賀層貝化石  
6月22日・7月12日 町内各地 展示用岩石標本

7月3日 平丘 函洩層群化石  
7月21日 稲里 長頸竜化石  
8月25日 パンケオビラルカ沢 紅葉山層貝化石  
10月22日、11月15日 富内・平丘 函洩層群化石  
11月20・21日 富内ペンケルサノ沢  
モササウルス化石  
3月26日 パンケオビラルカ沢入口  
紅葉山層貝化石

<昭和58年度>

4月7・14日 富内・平丘 函洩層群化石  
5月4・8・19日 安住 上部えぞ層群化石  
5月27日、6月2・5・8日 稲里ソソシ沢  
白船沢・富内・平丘・函洩層群化石  
6月11日 パンケオビラルカ沢 紅葉山層貝化石  
7月14日 新登川 滝の上層貝化石  
7月22・23日 平丘・キウス 函洩層群化石  
8月10日 稲里穂別川本流上部えぞ層群化石  
8月14日、9月4日 富内・平丘 函洩層群化石  
9月10日 長和スタボマナイ沢 中部えぞ層群化石  
9月14日 稲里ソソシ沢 函洩層群化石  
11月20日 稲里滝の沢 上部えぞ層群化石

## ● 調査研究活動

博物館の主たる活動には、①資料収集保存活動、②調査研究活動、③展示を含めた普及教育活動がある。これら三活動は互いに密接な関連があり、どれもおろそかにはできない。

質の高い博物館活動を行なうためには、その基礎に豊富な資料と地域に側した調査研究活動が不可欠である。

### I 函渕層群産化石の調査研究(継続中)

後期白亜紀ヘトナイ統の模式地のひとつ富内(旧名ヘトナイ)を町内に有していることから、当館の鈴木学芸員が昭和58年度より函渕層群(ヘトナイ統)産化石の調査研究を開始した。

- 内容 1.化石採集及び地質調査  
2.文献資料の収集

### II 脊椎動物化石の研究推進

- 1 デスモステルス化石～北海道教育大学札幌分校木村方一助教授に研究委託(継続中)。  
一部は当館研究報告第1号に発表
- 2 ウミガメ化石～京都大学平山廉氏に研究委託(継続中)
- 3 長頸竜化石～京都大学仲谷英夫氏に研究委託(継続中)
- 4 モササウルス化石～学芸員鈴木茂が継続研究
- 5 長頸竜化石と共産した板鰓類化石～京都大学久家直之氏に研究委託、当館研究報告第1号に発表。

### III 刊 行 物

穂別町立博物館研究報告第1号(昭和58年3月27日発行)52頁、9図版(\*は館外研究者)

菅原康次:創刊のことば、1。

北川芳男\*:研究報告の発刊によせて、2。

亀井節夫\*:穂別町立博物館と日本の古脊椎動物学 3-9。

木村方一\*・赤松守雄\*:北海道穂別町産デスモステルスについて(第1報)、11-23、pls. 1-6。

八幡とも子\*・赤松守雄\*:北海道から産出する *Patiopecten kobyamai* について。 25-31、pl. 1。

久家直之\*:北海道勇払郡穂別町産の長頸竜化石にともなう板鰓類化石について。33-36。

仲谷英夫\*:穂別町産クビナガリュウ(長頸竜)の復元。37-40、pls. 1-2。

仲谷英夫\*・久家直之\*:大型化石の模型製作法について—穂別町産長頸竜化石の経験から—。41-46。

鈴木茂\*:北海道穂別町産白亜紀爬虫類化石について(予報)。47-52。

### IV 学芸員の館外活動

昭和57年5月2日 日本地質学会第89年学術大会(新潟市)において「北海道穂別町周辺の上白亜系より産出した脊椎動物化石(予報)」の題で久家直之、仲谷英夫、平山廉の各氏と共同で講演をおこなう。

昭和58年11月27日 日本地質学会北海道支部例会学術シンポジウム「北海道の脊椎動物化石—その時代と古環境」(北海道開拓記念館)において、「穂別町産クビナガリュウと古代カメ」と題して仲谷英夫氏とともに講演する。

昭和59年2月18日 地団研北海道支部例会(札幌)において「博物館と普及活動」と題して講演をおこなう。

昭和59年2月26日 北海道化石会総会(三笠市)において「よみがえるクビナガリュウ」と題した講演をおこなう。

昭和59年3月30日 日本地質学会第91年学術大会(東京)において「北海道穂別町産モササウルス化石について」と題した講演をおこなう。

## ● 普及教育活動

普及教育活動は展示活動とともに博物館活動の中心的な活動であるが、その基礎には学芸員の調査研究活動の成果が生かされなくては十分なものにはなれない。言いかえるならば、地方の博物館にあってはその地域の自然と文化の理解が普及活動に必要不可欠であると言える。そういう意味では開館もない当博物館の普及活動は十分とは言えず、今後の活動に待つところが多いと言えよう。

### <自然観察会>

昭和58年度

「春の野山を歩く」 6月26日 参加7名

「化石採集会」 8月10日 参加9名



春の野山を歩く

### <博物館講座>

昭和57年度

「昆虫や化石の名前をおぼえよう」

8月17日 参加2名

「蘆別のおいたちを探る」 4回開催

参加人数延べ38名

- 第1回…2月5日 北海道の形成
- 第2回…2月12日 クビナガリュウの海
- 第3回…2月19日 石炭の森
- 第4回…2月26日 クジラとデスモスチルスの海

「化石クリーニング教室」

10月から3月まで計9回開催

参加人数延べ79名

58年度

「植物・昆虫の標本づくり教室」

7月10日 参加人数13名

「化石クリーニング教室」

4月から9月まで計6回開催

参加人数31名



化石クリーニング教室

### <ビデオ映写会>

57年度

「恐竜の時代」、「人類への道」等、4回開催

参加人数57名

58年度

「大陸と大洋」、「生命の起源」等、6回開催

参加人数64名

### <ホッピーだよりの発行>

昭和58年4月から毎月1回、町の広報紙とともに全戸配布をおこなっている。

内容は、行事案内や休館日の案内の他に、化石の話や各地の博物館の紹介、資料寄贈者の名簿等を載せている。

## ● 運 営

### I おもなできごと

#### <昭和57年度>

- 7月20日 穂別町立博物館開館記念式典(無料開放)
- 8月1日 追分町教育委員会教育長視察
- 8月19日 北海道開拓記念館資料管理課長野村崇氏  
来館
- 8月24日 日高町議会産業建設常任委員会18名視察
- 8月26日 第1回博物館協議会開催
- 8月27日 北海道開拓記念館学芸部長北川芳男氏来  
館
- 8月31日 月形町教育委員会23名視察
- 9月16日 壮瞥町教育委員会5名視察
- 9月21日 森町教育委員会6名視察
- 9月27日 コイワシクジラ骨格組立完成
- 9月28日 長万部町教育委員会教育長、八雲町教育  
委員会教育長視察
- 9月29日 胆振支庁長ら8名視察
- 10月19日 北海道近代美術館学芸部長来館
- 10月29日 信濃町教育委員会中村由克氏野尻湖博物  
館建設のため来館
- 10月31日～11月3日 町民文化祭化石展開催
- 11月3日 厚真町教育委員会5名視察
- 11月16日 胆振教育局2名視察
- 11月17日 苫小牧市教育委員会生玉教育長視察
- 12月1日 第2回博物館協議会
- 12月8日 竣工1年後点検
- 12月11日 いわき市教育委員会小島秀雄社会教育課  
長、横浜国立大学長谷川善和教授来館
- 12月19日 クビナガリュウ復元骨格展示式
- 12月19日～1月23日 第1回特別展「よみがえるク  
ビナガリュウ」開催
- 1月11日 厚真町教育委員会教育長外6名視察
- 2月8日 市立室蘭水族館成田正則施設係長外2名  
クジラ骨格組立てのため来館
- 3月28日 博物館協会設立総会

#### <昭和58年度>

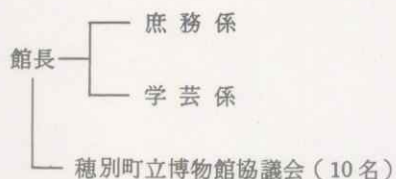
- 4月28日 菅原康次新館長就任
- 5月20日 北海道大学理学部地質学鉱物学教室3年  
生野外巡検一行23名見学
- 5月31日 常設展示のうち、白亜紀化石の展示替え
- 6月3日 第1回博物館協議会開催



開館記念式典

- 6月12日 様似町教育委員会教育長外6名視察
- 6月14日 新冠町教育委員会4名、乙部町教育委員  
会4名視察
- 7月6日 広尾町教育委員会2名視察
- 7月14日 いわき市鈴木直氏、博物館建設のため来  
館
- 7月15日 八雲町教育委員会9名視察
- 7月22日～8月7日 収蔵資料展「地図展」開催
- 7月26日 中富良野町文化財保護委員7名視察
- 8月4日 広尾町教育委員会教育長外10名視察
- 8月20日 士別市博物館17名見学
- 8月27日 様似町教育委員会14名視察
- 8月28日 博物館協会による化石採集会開催
- 9月2日 様似町議会議員12名視察
- 9月12日 中頓別教育委員会5名視察
- 9月27日 第2回博物館協議会開催
- 10月27日 余市町教育委員会7名視察
- 11月1日～3日 町民文化祭「こけし展」開催
- 11月13日 夕張市郷土資料保存研究会11名見学
- 11月14日 標津町教育委員会6名視察
- 11月15日 忠類村教育委員会12名視察
- 1月25日 豊浦町教育委員会社会教育委員7名視察
- 3月29日 弟子屈アイヌ資料館長来館
- 3月29日 第3回博物館協議会開催

Ⅱ 組 織



• 博物館協議会委員（昭和59年3月31日現在）

- 会 長 久保田瑞真  
 副会長 荒木新太郎  
 委 員 森本 信雄  
 “ 大屋 常吉  
 “ 村上 隆  
 “ 笠原 俊夫  
 “ 武田 武夫  
 “ 田村 勝代  
 “ 佐藤 嗣夫  
 “ 中村 忠良

• 職員名簿（昭和59年3月31日現在）

- 館 長 菅原 康次  
 学 芸 員 鈴木 茂  
 学芸補助員 都田 哲

Ⅲ 利 用 状 況

<昭和57年度の入館者>

月	一 般	小学生～高校生	計	開 館 日 数
4 ~ 6	—	—	—	—
7	749	593	1,342	10
8	1,665	1,025	2,690	25
9	726	393	1,119	23
10	584	499	1,083	26
11	447	245	692	24
12	205	182	387	24
1	379	259	638	20
2	347	203	550	23
3	257	226	483	25
計	5,359	3,625	8,984	200

<昭和58年度の入館者>

月	一 般	小学生～高校生	計	開 館 日 数
4	434	257	691	24
5	742	451	1,193	23
6	723	1,322	2,045	25
7	1,135	1,138	2,273	27
8	2,255	1,491	3,746	26
9	1,008	236	1,244	25
10	864	470	1,334	26
11	323	203	526	25
12	168	120	288	26
1	157	78	235	20
2	146	70	216	24
3	202	110	312	26
計	8,157	5,946	14,103	297



## Ⅳ 予 算

〈昭和57年度〉 (単位 千円)

費 目	予 算	費 目	予 算
報 酬	1,952	役 務 費	293
共 済 費	234	(通信運搬費)	162
賃 金	1,466	(保 險 料)	52
報 償 費	1,023	(手 数 料)	79
旅 費	314	委 託 料	13,447
需 用 費	7,300	使用料及賃借用	52
(消 耗 品 費)	1,403	工事請負費	79,010
(燃 料 費)	2,566	原 材 料 費	100
(食 料 費)	349	備品購入費	6,681
(印刷製本費)	918	負担金補助及交付金	38
(光熱水費)	2,014	博 物 館 費 計	111,910
(修繕費)	50	合	

〈昭和58年度〉 (単位 千円)

費 目	予 算	費 目	予 算
報 酬	2,201	役 務 費	474
共 済 費	226	(通信運搬費)	368
賃 金	1,100	(保 險 料)	52
報 償 費	853	(手 数 料)	54
旅 費	461	委 託 料	1,004
需 用 費	7,644	使用料及賃借用	234
(消 耗 品 費)	1,384	工事請負費	350
(燃 料 費)	2,412	原 材 料 費	171
(食 料 費)	82	備品購入費	1,981
(印刷製本費)	1,230	負担金補助及交付金	101
(光熱水費)	2,346	博 物 館 費 計	16,800
(修繕費)	190	合	

## Ⅴ 施 設 の 概 要

名 称	穂別町立博物館
建設地	北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6
構造	鉄筋コンクリート平屋建
建設年度	主本工事 昭和56年度 展示工事 昭和56年度—昭和57年度 外構工事 昭和57年度
規 模	建設面積 1,100 m <sup>2</sup>

(内訳)

・ 展 示 室	372.88
・ 特別展示室	99.08
・ 収 蔵 庫	86.56
・ 研 究 室	31.50
・ 事 務 室	40.50
・ 整 理 室	29.92
・ 学 習 展 示 室	184.75
・ 書 庫	35.05
・ 共 用 部 門	219.76

建設費 総額 362,165千円

(資金内訳)

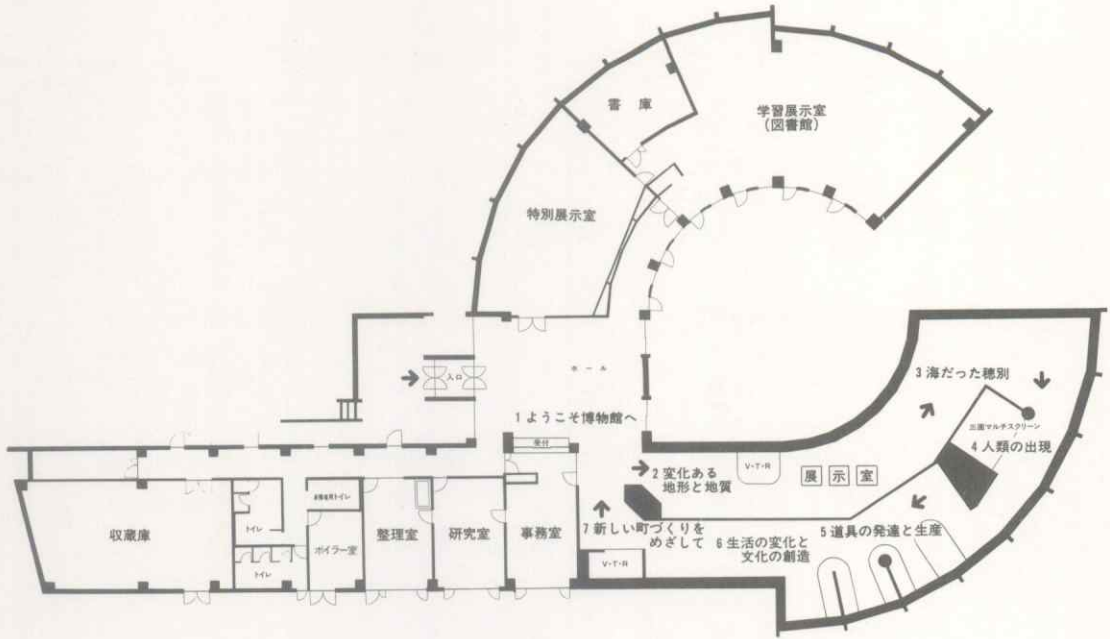
国庫補助金	42,000千円
道費補助金	42,449千円
地方債	156,300千円
(簡易保険積立融資)	
一般財源	121,416千円

(支出内訳)

1. 主体工事	221,335千円
2. 展示工事	87,000千円
3. 外構工事(予算額)	34,270千円
4. 設計管理費	10,970千円
5. 備品購入費	6,490千円
6. その他	2,100千円

工事施行関係者

主体工事(工事施工)	鹿島建設株式会社札幌支店 株式会社 遠 藤 組
設計監理	株式会社 丹青社札幌店
展示工事	株式会社 丹青社札幌店
外構工事(土工)	株式会社 山 越 組
(電気)	佐々木電気商会
監 理	穂別町役場建設課 穂別町教育委員会



穂別町立博物館平面図

### Ⅵ 利用案内

開館時間 午前9時30分～午後4時30分  
 休館日 月曜日・国民の祝日の翌日・毎月月末・  
 年末年始

#### 観覧料

	一 般	小・中学生、高校生
個 人	200 円	50 円
団 体 (10人以上)	150 円	30 円

穂別町立博物館館報第1号

(昭和57年度～58年度)

発行 1985年3月30日

発行者 穂別町立博物館

☎ 054-02

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

電話 (01454) 5-3141

印刷所 さんようプリント

